

# あいち 食品工業技術センターニュース

## 2012年1月号

- 今月の内容 ● 新任 あいさつ  
● 新しい組織紹介  
● 技術解説「2軸エクストルーダーの仕組みと利用例」

### 新任のごあいさつ

センター長 来川保紀



あけましておめでとうございます。

このたび、1月1日付けであいち産業科学技術総合センター食品工業技術センター長に就任いたしました来川（きたがわ）保紀です。新年にあたり、また新任にあたりご挨拶を申し上げます。

県の人事は通常4月1日に行われますが、1月1日で「愛知県産業技術研究所」は「あいち産業科学技術総合センター」と名称を変更するとともに、本部機能をリニモの陶磁資料館南駅に隣接する愛知万博会場跡地に移転することとなり、それに伴う人事異動により今回の新任のご挨拶となりました。これは愛知県がこれまで進めてきた「知の拠点」構想に基づくもので、来る平成24年2月14日に開所式を行う運びとなりました。この構想は、筑波学園都市に代表される学園都市構想の流れを汲むものです。「知の拠点」は大学等の研究成果を、ものづくり産業の技術革新に繋げることを目的としており、大きく2つの施設、「中部シンクロトン光利用施設」と「先導的中核施設」からなります。これらの施設は産業界に広く利用されることを前提として、愛知県が計画段階から産業界、地域の大学の協力を頂きながら準備を進めてきたものです。「中部シンクロトン光利用施設」では、シンクロトン光を試料に照射す

ることで、その物質に関する様々な知見が得られます。特に試料が微量であっても短時間で測定できることを特徴としています。また「先導的中核施設」では3つの重要プロジェクトが進められます。その中に食品に関する「食の安心・安全技術開発」プロジェクトがあります。これは異物検査による食品製造業へのものづくり支援として、「高精度検査により実現する安心・安全な愛知県産の食品・農産物の提供」を目的としたものです。

愛知県は製造品出荷額全国1位を誇るものづくり県です。しかし、伸び続けた出荷額も平成20年9月のリーマンショックによる金融危機から大きく落ち込みました。特に自動車関連は影響が大きく、それは食品に関しても例外ではなかったのです。消費が進まないとお金が回らない。お金が回らないと益々買わなくなるという悪循環から少し抜け出せたと思われた、平成23年3月に宮城沖でマグニチュード9.0の巨大地震が起こり、これに伴い発生した津波は東北地方沿岸部に未曾有の被害をもたらしました。リーマンショックは100年に1度と言われました。東日本大地震は1000年に1度といわれます。天災は食い止めようがありませんが、次に10000年に一度の何かがやっこないよう祈るだけです。

現在、景気指数はそれほど悪くないはずなのに、私たちにあまり景気回復感が感じられないのは、先行きの懸念材料が多いためでしょう。そのために消費マインドを暗くし、景気浮揚感を下押ししているのではないのでしょうか。最高値を記録している円高、ギリシャ財政破綻危機に端を発したユーロ安、中近東情勢の不安定から来る原油高、レアメタルなどの資源高、そしてデフレスパイラルの進行など不安材料の枚挙にいとまがありません。

しかし、このような厳しい状況ではありますが、食品工業技術センターでは新体制の下、

中小食品製造業界の皆様のお役に立てるよう、本センターの基本使命である技術相談・指導、依頼試験および研究を中心に業務の推進を図っていく所存であります。また、技術者養成のため研修生を随時受け入れるほか、最新の技術情報を提供するために講演会・研究会などを開催します。今後とも、県内ものづくり企業のもつ技術課題に対し解決策を提供させて頂くとともに、技術支援機関として信頼されかつ利用しやすいセンターを目指してまいりますので、なお一層のご支援とご協力をお願いいたします。

編集・発行

あいち産業科学技術総合センター食品工業技術センター 平成 24 年 1 月 30 日発行  
〒451-0083 名古屋市西区新福寺町 2-1-1 TEL 052-521-9316 FAX 052-532-5791  
URL : <http://www.aichi-inst.jp/shokuhin/> E-mail: [shokuhin@aichi-inst.jp](mailto:shokuhin@aichi-inst.jp)